

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	アジア・モンスーン地域の建築環境検討小委員会		主 査 名：福代 和宏 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会		委員長名：糸長 浩司
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的) 急速な経済発展を続けているアジア地域はエネルギーの一大消費地であり、地球温暖化に多大な影響を及ぼしていると考えられる。そこで、アジアの都市とその周辺の農村部における住宅エネルギー消費量の実態を明らかにし、住環境要因と住宅エネルギー消費の関連性を構造的に明らかにする。そして、文化的に多様なライフスタイルを考慮した将来予測を行なうことにより、エネルギー消費の増加を抑制しつつ、快適で健康な室内環境を実現するための省エネルギー政策の基礎となる資料を整備する。</p> <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①東アジア・東南アジア等における住環境の実態調査 ②都市部の商業ビルやオフィスなど非住宅建築の省エネに向けたエネルギー消費実態調査の実施 ③自然エネルギー利用に関する調査 ④アジアにおける社会経済・地理データの収集 <p>2 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①東アジア・東南アジア等における住環境の実態調査 (継続) ②非住宅建築の実態調査 (継続) ③自然エネルギー利用に関する調査 (継続) ④アジアにおける社会経済・地理データの収集 (継続) ⑤住宅用エネルギー消費のモデル構築と分析 ⑥アジアにおける住宅部門省エネルギー対策の検討 		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：福代和宏 (山口大学) 幹事：川上梨沙 (清水建設) 委員：中上英俊 (㈱住環境計画研究所), 吉野博 (東北大学名誉教授), 外岡豊 (埼玉大学名誉教授), 高偉俊 (北九州市立大学), 高口洋人 (早稲田大学), 久保田徹 (広島大学), 一ノ瀬雅之 (首都大学東京), 宇野朋子 (武庫川女子大学), リジャル H バハドゥル (東京都市大学), 小西純 (統計情報研究開発センター), 玄姫 (㈱住環境計画研究所), イム・ウンス (東洋大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2020 年度予算	80,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~fukuyo/Asia-committee/</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍の影響により、東アジア・東南アジア各国に直接出向いての調査は困難となった。 2. しかしながら代替策として、Zoom, Webex 等の遠隔会議システム等を活用することにより、海外共同研究者からの協力を得ながら実測・実験・解析等が実施され（久保田，一ノ瀬ら），当初の活動計画の大半を達成することができた。 3. 東アジア・東南アジア各国を対象社会経済・地理データの収集に関しては、予定通り、最新のデータを収集することができた（福代）。 4. 活動成果の一部は上述の拡大委員会（Zoom ミーティング）において発表することができた。
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別の調査研究は代替策（遠隔会議システムの活用，海外共同研究者との分担作業等）を講じることによりほぼ活動計画通りに実施された。 2. 本小委員会の委員は国内外に広く分散して活動していたため，昨年度までは一堂に会する機会を設けることが困難であったが，コロナ禍により遠隔会議システムの活用が進んだため，本年度はむしろ，集まることが容易となった。今後も遠隔会議システムの活用を進める。